

# 青陵

## 今号の主な紙面

- \* 2、3頁 ごあいさつ、本部同窓会
- \* 8頁 「アスリート」(窪田登さん、田淵和江さん)
- \* 9頁 「倉敷の老舗」を訪ねて⑤
- \* 10、11頁 学校の近況
- \* 12、13頁 [特集] 倉女・倉中、青陵草創期、青陵70期
- \* 16頁 「先輩は語る」(渡辺行雄さん、佐藤保さん)
- \* 別冊1～4頁 同窓会、広告など

# 創立111年、会報51号に喜び

同窓会副会長 今岡 道雄(13期)



青陵高校同窓会の会員の皆様には、ご健勝で過ごしのことと推察いたします。

今年、新しく元号も令和になり、青陵高校は創立111周年を迎え、「同窓会だより」も半世紀を過ぎ第51号を発行することができました。古き青陵から昨今のことまで、卒業生から現役生徒の活躍まで幅広く記事にして、皆様に喜んでもらえているのではないかと思います。

今年3月の卒業生は難関国立大学などに多数の合格者を記録したことを大変嬉しく誇りに思います。先生方の生徒に対する熱心で緻密な指導にほかなりません。母校と同窓会の発展のために微力を尽くしたいと思っておりますので、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

## ごあいさつ

校長 高槻 信博(同窓会名誉会長)



同窓生の皆様方には、益々ご清栄のことと存じます。平素からご支援を賜り感謝いたします。創立百十周年記念事業で最後に残っていた中庭整備事業が令和2年夏ごろには完了し、ひと区切りがつかます。

進学実績には一定の評価を受ける青陵高校ですが、VUCAと呼ばれる社会を生き抜くことができる人材育成に向けて、新たな取組を始めています。

主体的な学びや積極的に何かに挑戦することの奨励、グローバルを意識した学校行事などです。例えば、カリフォルニア大学バークレー校での研修や学生とのセッションを行う「アメリカ研修」を新たに実施します。

最後になりましたが、同窓生の皆様方のご活躍とご健康をお祈りし、ご挨拶いたします。

略歴 高梁市出身。高梁高校から岡山大学理学部数学科を卒業。専門は数学。倉敷鷺羽高校、岡山芳泉高校の各教頭を経て玉島高校長から倉敷青陵高校長に就任。

## 同窓会本部総会

(令和元年8月4日、倉敷アイビースクエア)

令和初の同窓会本部総会に、例年通り約300人の同窓生が会場いっぱいに集合しました。

テーブルに着いた途端に「おお、久しぶり。元気？」と盛り上がるのを遮るように、岡田会長があいさつで、「限られた時間ではありますが、総会と懇親会で卒業期を超えた交流をしてください」と呼び掛け、高槻校長(名誉会長)が「(生徒の前以外で)こんなに多くの人の前でしゃべったことがありません。盛大な同窓会に驚きます。同窓生のパワーを感じます」と、初参加の感想を述べました。

岡田会長を議長に総会議事に入り、前年度の行事・決算・監査報告、役員の一部改選、本年度の行事・予算案を承認しました。

東京など3支部代表あいさつ、土家前校長ら2人の恩師紹介に続いて特別に、今春卒業した70期の評議員橋本牧さん(岡山理科大学)と久戸瀬涉さん(岡山大学)が登壇、「全員連れて来る予定が2人になりました」と冗談を飛ばし、「立派な先輩たちを見習います」と神妙に話していました。

当番幹事の栗正佳代子さん(35期)が乾杯の音頭で、「倉女40期、青陵70期の節目の年で



久しぶりの再会。さあ、飲んでしゃべろう！倉敷アイビースクエア

す。青陵で一緒に過ごせた幸せを感じながら乾杯しましょう」と発声、華やかに開宴しました。

途中、役員や校長、70期生らの記念写真を撮り、最後に全員起立、元応援団長・武本東京青陵会会長のリードで校歌を高らかに歌い上げて締めました。

役員の一部改選は次の通り。(任期2年)

理事 正保宏文(22期) / 会計 山中桂子(31期) = 書記兼務、村上裕亮(59期) = 事務局 / 会計監査 森定祐子(25期)

□…当番幹事は主に5、6、15、16、25、26、35、36、45期生が担当しました。ご苦勞様でした / 引き続き、別の部屋で4期、12期、15期、25期が同期会を開きました。

## 令和初、青陵節目の年華やかに

### 石井美江さん(26期)の染織(タペストリー)

◇表紙の写真 青陵110周年OB美術展に出品した石井美江さん(26期)の染織「光」(タペストリー)。石井さんは青陵時代、美術部。女子美術大学を卒業して染織の道に進み、自営の染織工房ソミエで制作に励み、三十数年のキャリアがある。倉敷市在住。(お断り:紙面の都合で作品の一部をカットしたことをご容赦願います)

最後の締めにも全員で高らかに校歌を斉唱



勢ぞろいした同窓会本部役員、校長、70期生ら



## 編集室へメール

総会で乾杯の音頭を担った35期の栗正佳代子さんから編集室へメールが届きました。「参加者ひとこと」の拡大版です。メールの内容は一部加工しています。

### 栗正佳代子 (35期)

評議員をしています。今回は当番期で30人が参加しました。(編集室が)乾杯の口上のデータなどを提供、表舞台に慣れない私にアドバイスして励ましてくださり心強かったです。

同期生はみんな再会を喜び、最初誰だか分からない人も目が慣れてきたら昔のままに見えてきました。不思議なものですね。子育て、介護と話に花が咲きました。

小学校から高校までガールスカウトをしていたので高校の部活はしていませんが、やんちゃな思い出はあります。

2年生のクリスマス会で、キリスト教会に友達のお父さんの当時最新鋭のカラオケ機を持ち込んでカラオケ大会をしました。「愛の水申花」や「待つわ」など流行歌を次々歌いましたが、デュエット曲として選んだのが「3年目の浮気」でした。(結婚式もする)教会で「3年目の浮気」とはねえ、シャレがきつかったです(笑い)。

今考えると、よく怒られなかったなあと冷や汗ものです。最近、その音源が出てきたので今回聴いてみんなで大笑いしました。

青陵祭では応援合戦のほか、フォークダンスで好きな男子の番になるとドキドキしたり、遅くまで打ち上げをして先生に叱られたり、有志で後楽園に遊びに行ったりと、楽しい高校生活を送りました。

リケジョでITの仕事のサポートをするヘルプデスクという特殊な仕事を20年ほどしました。企業や官公庁に常駐、学校へもアドバイザーとして出向きました。お役に立て、やりがいがありましたね。

(倉敷市在住)

## 教会で「3年目の浮気」を熱唱

### 参加者ひとこと

#### \* 橋村英治さん (6期)

「20年以上前から理事をしており、ほぼ毎年出席しています。今回は当番期ですよ。在学中は2年間バドミントン部でした。県代表で全国大会にも行きました。文化祭と運動会? うーんあまり覚えてません。大学

### バドミントン部で全国大会出場

は東京でした。倉敷で水道工事の会社を営営していますが海釣りが趣味で、今は玉野に住んでいます。目の前が海でね、たまりません。釣り船も持っています」

#### \* 岡野恵理子さん (45期)

「評議員をしています。5年前の当番期に次いで2回目の参加です。4期を超えると参加者があまりいないそうですね。今回は当番期なの

### 5年前に次いで2回目の参加

で同期の人と2人で来ました。美術部で青陵祭では作品を展示しました。医療系の短大で勉強して今、看護師として働いています。息子・娘が3人いて中学生と高校生です」

(倉敷市在住)

## 本部事務局 転任古谷さんに感謝 定年退職林さん引き続き主任

同窓会本部事務局の青陵高校教諭古谷仁志さん(59期)が、平成31年4月の異動で、鴨方高校へ転任になりました。4年間お世話になりました。

また、同窓会係主任林俊輔さん(28期)は前年度末で定年退職、4月に再任用で母校に引き続き勤務、同窓会の窓口として同主任も継続します。

## 38年前の卒業記念レコード発見

38年前の青陵高校卒業記念のレコードが古本まつりに出品されている!との情報を得て平成30年9月、早速入手しました。

直径17㍉のEPレコードで「第32回卒業記念」(1981年)となっています。昭和56年に卒業した32期生の記念品です。企画・編集は「生徒会」となっています。

A面は校歌と応援歌、B面に陵歌「陵丘を慕いて」「我等が陵

歌を」の4曲を収録しています。青陵名物・陵歌は毎年1曲ずつ寄贈して巣立つという伝統があり、この陵歌2曲は32期生の寄贈歌では、と思われる。

38年前のレコードなので32期生の本箱の隅に今も眠っているはず。しかし、「卒業記念となっているようですが、陵歌生グループを中心に配り全員には渡っていないと思われます」(32期生)という話もあり、ちょっとしたお宝かもしれません。

## 校歌や陵歌4曲を収録

## 念願の京大大学院森教授の講演を聴く

理事 高橋 祥二 (28期)

今年の東京青陵会総会は約70人の同窓生が集い、来賓として高槻校長、岡田本部同窓会長、今岡副会長、倉敷市東京事務所の船越所長、そして、念願の28期・京都大学大学院教授の森和俊先生にご来席いただきました。

昨年に続きバンド演奏もありましたが、メインは森先生の講演でした。

同期として理事会から森先生との日程調整を仰せつかり、昨年の理事会の場から早速携帯メールで打診をすると、即座に「前向きに考えます」との回答をもらいました。超多忙の先生ですが、幸い公的行事や大学関係の仕事ともバッティングすることなく、予定通り講演にこぎつけました。

先生は研究テーマ、細胞の中の「小胞体」を中心に約30分間、滅多に聞けない貴重なお話をしてくださいました。酒席なので私語を心配しましたが、さすが東京青陵会、静かに最後まで耳を傾け盛大な拍手を送りました。

個人的な感想を述べると、私も化学や生化学を多少かじった人間として、あの難しい内容をあそこまで分かりやすく話していただいた森先生のプレゼン力に敬服するばかりです。

当然ながら総会後は28期だけで「森先生」ではなく「森君」との二次会・三次会を楽しむことができました。森先生には、この場をお借りし改めてお礼申し上げます。



森教授の講演を聴いた東京青陵会総会

### 新橋のアンテナショップ

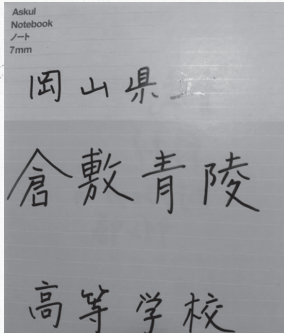
青陵高校の同窓会ノートに書き込んで！ 東京・新橋の居酒屋「有薫酒蔵」に次ぐ2カ所目の「青陵ノート」が、同じ新橋のアンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」2階に設置されています。

「青陵生の交流の場にして」と、35期の田中(旧姓井伊)とよ子さんが発案、平成30年8月に開設しました。設けてまだ1年余りなので、書き込みが少なく盛り上がりません。在京OB・OGや上京組のメッセージが期待されます。

「とっとり・おかやま新橋館」は東京メトロ

### 2カ所目 東京の「青陵ノート」

「とっとり・おかやま新橋館」に設置されている「青陵ノート」の表紙



銀座線の新橋駅前であり、両県が共同運営、桃と梨の「ももてなし」精神で特産品販売と料理を提供しています。

アンテナショップに足を運んでみてください。

## 青陵祭新企画 反対押し切り強行

\*寺山一己さん(23期)

「理事から副会長になって2年目です。野球部の内野手でした。関東に野球部OBが66人おられゴルフコンペを開いています。居酒屋を経営して36年になり、東京青陵会の公式2次会や野球部OB会の忘年会などに利用してもらっています。青陵祭はブロックごとに一致

### 参加者ひとこと

団結、営火祭で陵歌を

歌い青陵生が一つになりました。家政科の女子と交流できるのも楽しみでしたね。3年時は金魚すくいやカフェの新企画を、学校側の反対を押し切って強行、相当しられました。体育委員長でもあったし、元氣よかったですよ」

(東京都在住、早島町出身)

\*栗原 健さん(70期)

「卒業したばかりの一番若いOBです。実家に案内状が届いたので同期生2人と一緒に初参加しました。先輩たちに話しかけてもらって、かつての大学の雰囲気などいろいろ聞けて有意義でした。青陵時

代はバドミントン部

で県大会に出ました。3年生の最後の体育祭は、これまでになく熱く燃やしましたね。千葉大学国際教養学部に入學しました。将来の夢はまだ描けていませんが、国際関係や外交に興味があります」

(さいたま市在住、倉敷市出身)

## 同期の2人と一緒に初参加



当番幹事 神崎(旧姓小原)加与子(32期)

2月の幹事会では、①前年度大幅な赤字が発生し将来的にも財政改善の見通しが厳しい②若い世代の参加者が少ないとの課題が挙げられ、私たちができることに取り組むことにしました。

経費節減策として、案内状送付先の絞り込み、集合写真のクラウドサービスを利用した配布のほか、役員に相談して寄付金の要請を行いました。参加者増加策として、幹事32期生への徹底した働きかけと42期生に引き継ぐための電話勧誘、手書きで近畿青陵会の紹介と案内状の郵送、その後再度の電話と、アナログですが、できることは地道にすべてやりました。

かつて副会長、今も毎年出席

\*藤本(旧姓荒木)愛子さん(6期)

「20年ぐらいい前に副会長をしていました。そのころの参加者は40〜50人でした。特に阪神大震災の折は30人でした。私は毎年出席しています。クラブ活動はしていませんでした。文化祭、運動会の思い出？ すみません、何もありません。若いころから、夫が造りだす家庭用品の実用新案・特許を取り商品化、問屋へ卸す会社を手伝いました。夫の死後、社長業を受け継ぎ70歳過ぎまで働きました」(大阪市在住、倉敷市出身)

参加者ひとこと

同期に会えるのが楽しい

\*星島保夫さん(33期)

「近畿青陵会へは10年ほど前に1回出たきりでしたが、昨年から連続して参加しています。仕事の関係でね。同期の小原康正君、松居純二君がいて楽しかったです。クラブ活動、文化祭、運動会の思い出は残念ながらありません。イベント会社のディレクターをしています。主催者の求めに応じた舞台装置や音響設備、タレントの手配などです。イベントの多い週末の土・日が一番忙しいです」(大阪府豊中市在住、倉敷市出身)

近畿青陵会

(令和元年5月26日、大阪・太閤園)

経費節減、若手勧誘に腐心

結果的には、32期生15人が出席し結束力が強まりましたが、42期生の参加がなかったのは残念でした。来年は43期生以降の方に1人でも多く出席してもらおうのが願いです。

今年は特別なイベントはありませんでしたが、「テーブルごとのスピーチや世代を超えた歓談ができてよかった」との意見を頂きました。食事内容にもこだわり、今回初めてフレンチコースにしましたが満足できるものでした。

ご来賓、恩師の先生、ご寄付を頂いた皆様に深謝いたします。

□…出席者は来賓、恩師を含め4期から35期までの総勢67人でした。



こちゃんまりとした九州青陵会

博多ファン 毎年倉敷から参加

\*佐々木秀章さん(20期)

「東京の会社員時代に山陽、九州担当をしてすっかり博多ファンになりました。博多ラーメンが有名ですが、中国から入ったうどんは博多が発祥の地で、うどんの方がおいしいですよ。讃岐うどんを超えています。九州青陵会には私の同期が数人いることもあり、4年前から毎年倉敷から参加しています。今は食品や雑貨を扱う観光小売業です」

参加者ひとこと

九州青陵会

(令和元年10月12日、福岡・西鉄グランドホテル)

現役女子大生ら14人

第13回総会に14人が参加しました。病気や体調不良などで残念ながら昨年の24人より大幅に減りました。台風の影響で新幹線ダイヤが乱れましたが、本部の倉敷組は何とか往復できました。初参加の高槻校長が創立111年の学校の進路状況や部活の活躍ぶりを報告してくれました。

1人ずつ近況報告をしました。が、九州工大2回生の現役女子大生は「来年(3年生)には就職を決めたい」と決意を語っていました。本部の岡田会長は「今回、人数は減りましたが、よくまとまっています。楽しい2時間でした」と話していました。

# 創立110周年記念OB美術展

青陵高校の創立110周年記念OB美術展が、平成30年12月18日から24日まで倉敷市立美術館で開かれまして。80周年から10年ごとに企画し今回は4回目です。

美術界の第一線で活躍する倉女39期から青陵64期までのOB・OGと旧職員の作品合わせて44点がずらりと展示され、初日から出品

## 青陵芸術の粋 44点一堂

者やその関係者、青陵卒業生らが訪れ熱心に鑑賞していました。

作品は三宅弘子さん(倉女39期)の立体「輪廻V」、山本博子さん(青陵15期)の洋画「晩秋」、小野元さん(25期)の洋画「蒼い星の伝説」、さらに毛利一就さん(旧職員)の洋画の大作「内海初冬」など洗練された力作ばかりでした。



OB同士で作品を批評し合う創立110周年記念美術展

開催実行委員会は「高校のOB美術展って珍しいですよ。キャリア10年ぐらいの若い人は新鮮で面白いし、50年以上のベテランは壁が重くなるほど重量感と安定感がありますね(青陵13期・岡本篤さん)と、充実ぶりを強調していました。

青陵芸術のレベルの高さを示した展覧会でした。

## 洋画70年「福島隆壽とその教え子達」展

「いやあ、何年も前から話はあったんですよ。今回実現して嬉しいです。これは教師冥利ですなえー」。

福寿草の会主催「福島隆壽とその教え子達」展が平成31年1月、倉敷天満屋で開かれ、会場に駆けつけた洋画の道70年の福島隆壽さん(元在職教員)の感激の第一声です。

ユニークなこの展覧会のために今回結成したグループ名、福寿草の会には福島さんの名前「福」と「壽」をさりげなく入れる粋な隠し味が潜んでいます。

会場には青陵高校、鳥取大学教育学部、岡山大学教育学部(特設美術)時代の福島さんの教え子13人の作品55点が整然と陳列されました。

この中には、洋画の後藤晋さん(27期)、陶芸の武内立爾さん(29期)、現代美術の岡部玄(知敏)さん=17期=の3人の青陵OBが含まれ、力作をそれぞれ数点ずつ並べました。福島さん自らも「リシェール通り・パリ」など4点を掲げ、教え子たちの作品展に花を添えました。

東京芸術大学出身の福島さんは青陵高校に昭和40年から15年間勤務しました。「26期生だったかな、女子美3人娘、が出てね。課外授業で特訓して女子美(女子美術大学)に3人一度に合格したんですよ」と、にこやかに振り返ります。

福島さんが1年生の美術教科担任と3年生のクラス担任だった後藤さんは「美



自作の前に立つ福島隆壽さんと教え子の武内立爾さん(左)、後藤晋さん(右)

## 青陵OBは岡部玄さん(17期)ら3人出品

術系志望はほかの担任にはあまり快く思

われませんでした。さすが福島先生はすべてを理解してくれましたね」と感謝しています。

顧問を務めた山岳部では『「同窓会だより青陵」の題字を揮毫した澤田真示(虚遊)君=21期=と同じテントで寝過ごしてね」と、愉快的思い出を話してくれました。

福島さんは岡山大学教授、同教育学部附属中学校長などを務め、紺綬褒章、山陽新聞賞、倉敷市文化章を受賞、現在は日展や岡山県展の審査員です。

□…後藤晋さんは令和元年6月の東光会第85回東光展(岡山市)で最高賞に次ぐ森田賞を受賞しました。

<p>法人設立・譲渡・相続税の申告相談</p> <p><b>梶谷孝行税理士事務所</b></p> <p>税理士 梶谷 孝行 (21期)</p> <p>〒169-0074 東京都新宿区北新宿3-22-10 パイロットハウス北新宿236号 TEL 03-3364-2411 FAX 03-3364-2410</p>	<p><b>チーム KAZU</b></p> <p>北田 和江 (22期)</p> <p>大河 量一 (23期)</p> <p>小川 和夫 (23期)</p>
<p>東京青陵会会長</p> <p><b>武本 幸寿 (25期)</b></p> <p>〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町1-15-401 TEL 090-6194-5324 E-mail: takemoto@d-union.jp</p>	<p><b>株式会社 JVCケンウッド</b></p> <p>中村 弘 (29期)</p> <p>〒226-8525 神奈川県横浜市緑区白山11-16-2 TEL 045-939-7038 FAX 045-939-7096 E-mail: nakamura.hiroshi@jvckenwood.com</p>
<p>東京青陵会 事務局長 東京倉敷ふるさと会 副会長 株式会社 プロ家庭教師さいたま CEO</p> <p><b>日岡 秀和 (30期)</b></p> <p>〈会社〉 〒331-0812 さいたま市北区宮原町2-51-40 TEL 048-654-0506 FAX 048-654-0569 E-mail: hioka@pt-saitama.com</p>	<p><b>庭忠</b> お庭のことなら何でもご相談下さい!</p> <p>なぎら <b>代表 奈喜良 忠浩 (38期)</b> 二重門前通三丁目</p> <p>〒157-0068 東京都世田谷区宇奈根2-12-27-D-3 TEL 090-9149-7077 FAX 03-6805-8576 携帯メール: zizu08nag@t.vodafone.ne.jp (iPhone使用)</p>



〒150-0044 渋谷区円山町25-7 PHONE/03-5458-5566  
E-mail: melrose@aioros.ocn.ne.jp

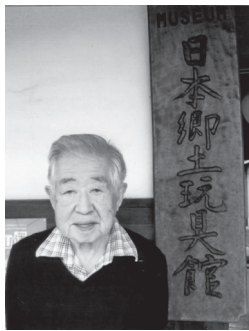
**寺山 一己 (23期)**

**株式会社 イムラ封筒**

タイパック営業部  
担当部長 **河崎 孝夫 (30期)**

〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2-3 シーパンス館10階  
TEL 03-5439-9870 FAX 03-5419-2245  
E-mail: ta-kawasaki@imura.co.jp URL: http://www.imura.co.jp

# 「獅子舞の後ろ足から独立」



講演をした大賀弘章さん

秋空に響く「すいんきょらっきょくそらっきょう！」でおなじみの倉敷・阿智神社の秋祭り(御神幸)に欠かせない名物キャラクター「素隠居」の講演会が平成29年10月、倉敷市本町の倉敷公民館で開かれました。

最近まで倉敷素隠居保存会会長を務めていた大賀弘章(ひろゆき)さん=4期=が、歴史愛好グループ「備中倉敷学」の講座に招かれ講師を務めました。大賀さんは阿智神社の前身「妙見」(のち妙見宮)から説き起こし、御神幸とともに320年を超える素隠居の変遷をスライドを駆使して1時間半にわたり語りました。備中倉敷学の会員や歴史ファンら約60人が耳を傾けました。

大賀さんは「お宮の形が整った江戸前期、京都の祇園祭を見物した倉敷の村人が『倉敷でも神輿を作ろう』と、京都で早速神輿を注文して帰りました。有力者の沢屋善兵衛さん(戎町)に相談、神輿と獅子舞を出すことにしました。1692(元禄5)年、神社近くの7地域による御神幸行列が初めて行われ、獅子舞の後ろ足として面をかぶった爺と婆(のちの素隠居)も登場しました。沢屋さんが人形師に面を作らせ、自分たちの代理として店の若者にかぶらせ行列に参加させたのです」と、誕生の経緯を明かしました。

さらに「明治になって妙見宮は名前が阿知(智)神社に変わりました。行列の爺と婆は獅子舞から独立。子

# 素隠居の誕生秘話 大賀弘章さん(4期)講演

もたちの人気者となり、「すいんきょ」と呼ばれて挑発され、それを追いかけて洩うちわで頭を叩く風習が生まれました。素隠居の語源は、面がラッキョに似ていることから「酢のラッキョ」では、と思われま

す。最後に「昭和に入ってからは祭り道具や衣装が古くなり、「ぼろぼろ道具のお通りじゃあ」とからかわれるようになりました。見かねた大原孫三郎さん(倉敷紡績社長)が阿智神社に道具一式を寄贈してくれたのです。7地域で始めた御神幸は今では27町内、約250人の御神幸の距離は数倍の12kmに伸びました。御神幸とともに素隠居は今も市民に親しまれています」と結びました。



講演会にちなんで登場した素隠居

講演会終了後、ホール出口に素隠居2人が登場、本番の所作通り参加者一人ひとりの頭を洩うちわで撫でてくれました。

素隠居は平成29年4月、美観地区の他の文化財7件とともに日本遺産に認定され、大賀さんの執筆で保存会再興25周年記念誌「すいんきょ」(50頁)が発刊されました。

□…大賀さんは青陵自動車部(のち廃部)の創設メンバーです。倉敷美観地区で日本郷土玩具館を経営しており、独楽の収集家として全国的に有名です。

# 江戸期から320年、日本遺産認定

## 寄稿

6期 井上 久仁子

昭和27年に入学。この年、体育館に近い校庭の一隅に教室と男子トイレが新築された。ホームルームはまだ男女共学ではなかった。音楽を専攻した1年5組の女子が新築の教室に入った。私もその一人。アイウエオの席順だから窓際の私は男子トイレばかりが見えていた。

音楽の先生は一年間に4人代わった。大西薫、森田幸子、奥山勝太郎、小山裕章の各先生である。新任の先生は最初に歌を歌ってください。大西先生と森田先生は思い出せないが、奥山先生はバロックシャンソン「我を苦しめて死なしめ給え」を歌ってください。小山先生は「ノミの歌」。「ノミにピロイドの服を着せて」という歌詞が今も頭に残っている。

## 入学時まだ男女別学



バドミントン部の同期生と村山先生。前列左端が井上さん(昭和30年撮影)

男子はその年から富井(旧倉中)校舎へ授業を受けにビーポー(水島臨海鉄道)で通うことがなくなったが、野球部、ソフトボール部は富井まで自転車通学にまわっていた。倉敷へ養子に来た倉中といわれていた。

私はバドミントン部へ入った。最初は大勢だったが3年生になると受験準備のためにやめていく人が多かった。同期は最後、男子3人と女子2人になった。顧問は村山寛先生だった。卒業後から現在まで交流が続くのはバドミントン部の友人だけ。古市(旧姓白神)博さん(2期)ら先輩が何人もコーチに来てくれて和気あいあいとした雰囲気だった。ライバルの山陽女子高校は中高一貫校で熱気が違っていた。短かいスカイ

## バドミントン部の仲間今も交流

トのユニホーム姿で、フォームが優雅なので見とれていた。

私は今年82歳になったが、65歳の時、夫(同期の(旧姓)岡村富七朗)とニューヨークに旅行した。バドミントン部の先輩多賀利明さん(5期)が米ペンシルベニア大学大学院教授になられると聞いていたので連絡してみたら、フィラデルフィアを案内してくれることになった。思いがけない楽しい一日だった。「人生とは邂逅である」と思う。

わが家の長男夫婦も33期の同級生結婚。親子二代、青陵高校が縁結びの神様である。

# アスリート

さあ、待望のオリンピック・イヤー！ 2020（令和2）年は2回目の東京オリンピックが華々しく開催されます。そこで、青陵の生んだアスリート2人を紹介します。重量挙げの窪田登さん（1期）と剣道の田淵和江さん（16期）です。改めてアスリートの軌跡をたどりました。

## ローマ五輪重量挙げ7位 窪田登さん（1期）

青陵に五輪選手がいます。60年前の1960（昭和35）年に開かれたローマ五輪の重量挙げ選手・窪田登さん（1期）です。ライトヘビー級で7位になりました。入賞の一步手前（当時6位入賞）でした。青陵の五輪選手はその後、生まれていません。

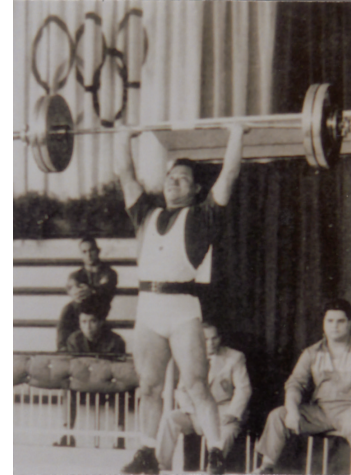
窪田さんは重量挙げに取り組む以前、たくましい体に憧れて筋力トレーニングを始めバーベルを持ち上げていました。倉敷中学校2年生のころです。今でこそ筋力トレーニングはスポーツ選手の常識となっていますが、そのはしりです。

アメリカの専門誌を入手、その中に専門家が「25年続けている」とあり、「よし50年続けよう」と決意したそうです。そのか

ピック！ 国内予選会では「世界ランク10位以内が候補」といわれ、自らに課したトレーニングに励み、びたり10位に到達、代表となりました。

その間、第1回全日本ボディコンテストで「ミスター日本」に輝くなど肉体美の持ち主でもありました。

早稲田大学教授と



ローマ五輪でプレス120キに成功した瞬間の窪田登さん（青陵創立80周年記念誌より）

## 全国2番目青陵に重量挙げ部生む

いあって倉敷高（のち青陵高）で始めた重量挙げで、国体兼全日本選手権で見事優勝を果たし、日本のトップリフターに躍り出ました。この活躍で、高校では全国2番目の重量挙げ部が青陵にできました。

1951（同26）年からの第1～3回アジア大会に連続出場して、銀メダル2、銅メダル1を獲得しました。さあ、次はオリン

して約200冊の著書を出したほか、筋トレの専門家として多数の専門書を著しています。同大学名誉教授で、のちに吉備国際大学学長を務めました。

□…窪田さんは青陵創立100周年記念誌に寄稿しています／倉敷市に帰郷していましたが、2017（平成29）年に亡くなりました。

青陵剣道部の卒部写真。前列右から2人目が田淵和江さん＝剣道部創部60周年記念誌より



「（2度制覇は）50年以上も前のことで、まだ女子

の剣道人口が少なかったころです。結婚後、剣道とは離れたものの体力、精神力が養われ自信ができました。今も私の人生を支えています」と、「剣道女子」の草分けは語ります。

田淵さんは青陵では剣道で実績を残した数少ないアスリートです。現在は夫の実家の酒店を切り盛りし、健康体操を30年続けています。

父の影響を受け小学校4年から水島武道館で剣道を習い始め、青陵でももちろん剣道部で鍛えました。入部当時は紅一点の貴重品でした。この時代は水島武道館との「ダブルスクール」で同じ先生の指導を受け腕を磨きました。2年生のインターハ

## 剣道全日本女子2度制覇

### 田淵和江さん（16期）

イで剣道に女子種目が加えられ初出場、3年生では4回戦まで進みました。

水島に就職して社会人となり、得意のメンとコテを武器に昭和41年と43年に見事優勝、40年準優勝、45年3位の輝かしい実績を誇ります。「前年の準優勝がバネとなり、次はぜひ」と自ら燃え、研究熱心な先生のアドバイスもあって優勝できました。初優勝した大会の出場者はわずか20人足らずで、3回勝ち抜けば優勝でしたが、大会を重ねるごとに増えていきましたね」と、振り返ります。

この数年間が田淵さんの全盛期で

した。26歳まで16年間竹刀を握り5段を獲得、青陵時代に始めた居合道も5段の計10段の女性武道家ですが、性格は穏やかです。

インターハイの剣道を通じて知り合った、偶然同姓の夫（元津山高専教授）は今も現役の7段という剣道夫婦ですが、子どもや孫は誰も剣道をしていないそうです。

「柔道はずっと以前から五輪種目なのに剣道はまだですよ。ね。悔しい！」と、かつての女性アスリートは健在でした。

（倉敷市出身、津山市在住）

## 剣道5段、居合道5段の武道家



## 明治42年創業 (有)渡辺酒造本店

渡辺英気 蔵主 (26期) =倉敷市連島町=

県内では近年、急速に減っていく酒造場ですが、今年創業110年を迎えたのが倉敷市連島町の(有)渡辺酒造本店です。4代目蔵主の渡辺英気さん(26期)が老舗の暖簾をしつかり守っています。同社は明治42年、渡辺吟吉さんが創業。綿業なども含め多角経営を展開しましたが、その後は酒造業に絞りました。

鋭のジェットト水流機で洗米、今では珍しくなった木製の搾り機で搾るなど新旧の機材を駆使、4カ月かけ1年分の製品を造ります。

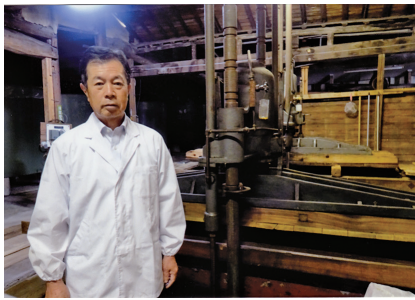


渡辺酒造本店

英気さんは以前から、全国の同業者が欲しがるとして、全国では岡山のみで普及した無農薬の木村式自然栽培「朝日米」という高級酒米を使ってきました。さらに平成の末、少量で高級な酒造りを

## 気鋭の杜氏迎え高級新商品開発

レンガ造りの高い煙突が見えてきます。煙突には白色で、酒蔵のブロック塀には黒色で、大きく「嶺乃誉」の文字が目飛び込みます。これぞ、酒蔵！ という雰囲気です。「嶺乃誉」は多数あつた銘柄を昭和初期に代



今では珍しくなった木製の搾り機と蔵主の渡辺英気さん

表銘柄と定め、主力商品として現在まで受け継いでいます。同社の酒造りは毎年正月明けに始まり最新鋭のジェットの水流機で洗米、今では珍しくなった木製の搾り機で搾るなど新旧の機材を駆使、4カ月かけ1年分の製品を造ります。英気さんは以前から、全国の同業者が欲しがるとして、全国では岡山のみで普及した無農薬の木村式自然栽培「朝日米」という高級酒米を使ってきました。さらに平成の末、少量で高級な酒造りを

## 「倉敷の老舗」を訪ねて ⑤

完

## 明治44年創業 日の出屋商店

田中 稔 代表 (14期) =倉敷市呼松=



日の出屋商店3代目の田中稔さん

## 時代を読み雑貨、呉服から学生服へ

倉敷市から玉野市へ向かう国道430号と水島臨海工業地帯に挟まれた呼松地区の集落に、今年創業108年になる日の出屋商店があります。

ど遠方から買いに来るお客さんもあるそうです。地域住民のための婦人服や婦人洋品も扱います。下駄と雑貨、呉服、学生服と時代を読み、しなやかに経営してきたのが同店の老舗たる所以です。

店の前の車1台がやつと通れるほどの狭い道路は、港町呼松のかつての旧道であり商店街ですが、50軒ほどあった店は今や10軒ほどになっています。その1軒、昔ながらのたたずまい、日の出屋商店は健在でした。店の名前は「ひのでや」です。



明治44年、指物大工だった田中富松さんが下駄と雑貨の「田中富松商店」として創業したのが始まりでした。実家が食料品や履物など雑貨屋を営んでいた妻に商売感覚があり、店の切り盛りは妻が行ったようです。玉島から仕入れた下駄や足袋を売りました。店のそばの八間川を南下、水島灘の河口には呼松港があり、備後の松永下駄は船便で仕入れました。

昭和29年に息子の秋男さんが2代目を継いで現在の店名に改称、呉服や肌着を扱うようになりました。同40年代の着物ブームのころには和装用ハンドバッグや草履の卸しも手掛けました。岡山の呉服問屋や県内一円の小売店を対象に着物の展示会を度々開きましたが、ブームは長く続きませんでした。平成に入ってから孫の稔さん(14期)が3代目を継ぎ、学生服を中心に商いを展開しています。主に近隣の保育園のスモック(上着)、小・中学校の男女制服です。丁寧な採寸、縫製が顧客の評判を呼び、鴨方や笠岡な

# 進路

進路指導課長 田中 誠一郎

2019年入試の国公立大学の合格者数は228人(浪人含む)でした。過去20年間で最多だった昨年と比較すると総数はやや減少しましたが、難関大学に48人が合格し、特に東京大学、京都大学には5年前と同じ計11人(昨年4人)が合格しました。生徒の志望を高めそれを貫かせる進路指導を継続してきた成果はあったと考えています。

現在、来年度入試から始まる「大学入学共通テスト」についてさまざまな情報や論評が飛び交っています。先日は、4技能評価を行っている民間の英語の資格・検定試験の活用について2024年までの延期という大きな発表がありました。英語で「リーディング」(従来の「筆記」)と「リスニング」が同配点になることについては、変更しないとのことですが、国語と数学①での記述式問題の実施に伴う自己採点及び段階別評価の導入については、現在でもさまざまな情報が日々更新され

## 難関国立大学を48人突破

ているため、予断を許さない状況が続いており、今後も綿密な情報収集と精査が必要となります。

さらに、入試における主体性評価の問題もあります。文部科学省の指導のもと、いわゆるペーパーテストの点数だけでなく、それぞれの生徒の主体的学習態度を高等学校におけるさまざまな活動履歴から多面的に評価しようとするねらいで実施が計画されているものですが、「面接」なのか「活動報告書」なのか、何を以てその評価を行うかを公表している大学はまだ少数です。このことについても本校では、新入試に移行する1、2年生でポートフォリオとして記録を残す指導を行っています。これらの取り組みに、当然これまでも大切にしてきた高質な学力の養成を加えて、より一層、進路指導の充実に努めてまいりたいと思っています。OB・OGの皆様には、御理解・御支援の程よろしくお願ひいたします。

## 2019年入試 主な合格大学

### 国立

東京大	3
京都大	8
大阪大	8
九州大	14
北海道大	3
名古屋大	2
神戸大	9
東京工業大	1
千葉大	1
東京芸大	1
奈良女子大	4
鳥取大	8
島根大	6
岡山大	47
広島大	8
山口大	9
徳島大	10
香川大	21
愛媛大	10
高知大	2
九州工大	5

### 私立

慶応大	3
津田塾大	2
東京理科大	4
早稲田大	2
同志社大	20
立命館大	35
関西大	16
関西学院大	24
岡山理科大	37
N D清心女子大	55

## 東大3、京大8、岡山大47人

## 早慶東理9、関関同立95人

## 新入試制度 今後も情報収集

パークレー校で大学生とのディスカッション、スタンプフォード大学での研修などを予定しています。アメリカを代表する名門大学で、年度末の3月に1、2年生の希望者二十数人が密度の濃い研修を10日間行います。この事業は県内の濃いはそんなに早いほうではありませんが、学校を挙げての先進的な取り組みとなります。

日米高校生の国際交流事業「AIG 高校生外交官プログラム」に2年生の福高七海さんが合格するというニュースがありました。個人応募

書道部のパフォーマンスで盛り上がる青陵祭オープニング  
=令和元年9月4日



生徒指導課長の広瀬洋介先生に、最近の学校生活の動きについてお話を伺いました。  
(聞き手は編集主幹)

◇

—2019年度からアメリカ研修事業を行うのですが、  
わが校が目指す世界で活躍できるグローバル・リーダー育成のため、カリフォルニア大学

## 生活

生徒指導課長

広瀬洋介先生に聞く

のため把握してなくて新聞記事で知りました。合格は県内では2人だけでした。福高さんは7月から8月の13日間、国内でアメリカの高校生に広島島の原爆を英語で伝え、平和の大切さを話し合いました。福高さんは、将来は国連で働くのが夢」と語っていましたね。

—部活の成果はどうですか。  
陸上競技部の飯田隼人君(3年生)が8月の沖繩のインターハイに走り幅跳びで出場、惜しくも予選で敗退しました。左足首の故障を抱えながら県大会、中国大会をクリア、よく健闘しましたよ。同好会から部に昇格して4年目の競技かるた部が7月の佐賀県の全国高校総合文化祭に参加、ベスト8に入りました。同じ部が県内に3校しかいない中でよく腕を磨きました。準々決勝ではストリート負けでした。ベスト8の壁は厚かったです。

## 年度末にアメリカ研修事業 競技かるた部 総文祭8強 6年ぶり3日間好天青陵祭

今年第57回は「青華乱舞」青き志士達よ令和に輝け」というテーマでした。毎年天候不順で泣かれましたが、6年ぶりに3日間スムーズに開催できました。ただし、準備期間に雨が降り、運動会でのブロック演技の練習は特に苦労しました。文化祭は1年生が展示、2年生がステージ発表、3年生が模擬店というパターンが定着しました。年々充実してきているのか、保護者の参加は1000人を超えているのか、と思われまふ。会場の体育館の暑さ対策、多忙を極める生徒と教員の負担など悩ましい問題がありますね。

—お忙しい中、ありがとうございました。



### 部訓「自主自立」を体現

定期演奏会と並ぶイベント、県吹奏楽コンクールに加え入学式や卒業式、青陵祭、野球部の応援と学校内外で幅広く活動しています。「自主自立」の部訓を掲げ、定期演奏会では企画から練習スケジュール、楽器運搬のトラックの手配まで手分けして準備します。同部のOG（33期）で顧問の渡辺真由美先生は「午前中に模試、午後本番なんていう厳しいスケジュールも苦にせず、演奏も含めみんながそれぞれの役割をしっかりと果たしています。卒業後も音楽に関わる人が多いですね」と雰囲気の良さを誇りにしています。

## 47回を重ねる定期演奏会

希望の春をイメージした「桜花の光跡」で幕を開けた吹奏楽部の第47回定期演奏会が平成31年3月24日、倉敷市民会館で華やかに開かれ、青陵生や保護者、小中高生ら約800人が詰めかけました。

第1ステージの最後は、第5回に初出演したという人など駆けつけた多くのOB・OGと「クイーンシティ組曲」を合同で演奏しました。

## 吹奏楽部

第2ステージでは「I WANT YOU BACK」、「米津玄師吹奏楽メドレー」で最高潮に達し、「交響組曲シネマ・トリロジー〜スタジオジブリ・コレクション 第1楽章 Sky-Flight」で最後を締め、1年間の集大成をしました。青春の音色を存分に響かせ貴重な時間を共有したのです。

前年9月には同会場で開かれた第3回おかやまスウィング甲子園に初出場して活動の幅を広げました。

創部57年になり部員は65人という大所帯で、女子が8割以上を占めています。平日に地味な個人練習やパート練習を積み重ね、週末に合奏で完成度を高め休日の本番に備えます。

## 部活に燃える

## 恩師は今

### 在勤15年教え子1600人

100歳目前  
かくしゃく

「かくしゃく」という言葉があります。御年（おんとし）97歳！近藤綾子先生のためにあるような言葉です。長男の運営する倉敷市内の介護老人保健施設に入所して元気に暮らしておられます。先生は岡山一女（現岡山操山高校）から東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）を卒業して家庭科の教員になりました。青陵高校へは昭和23年に着任、

2年がかりで完成させました。「あとがき」を「ふるさとの歴史を後に伝えんと老いら集えは時を忘るる」の1首で締められています。「こんなに長く生きられるとは思っていませんでした。自宅の近くにある山陽新聞の大きな学習・見学施設『さん太しんぶん館』（早島町）を一度見学したいんだけど、足が少し悪くてねえ」と、知的欲求は衰えていません。日記は40年前から今も書き続けています。

### 近藤綾子先生（家庭科）

同37年までの15年間、家庭科の生徒を約1600人教えました。担当は主に「家庭一般」の洋裁です。当時の家庭科は「体で覚える主義を徹底させました。優秀な生徒が多かったですよ。調理師や保育士の資格を取る人もいました」と振り返っています。

母校の岡山操山高校を経て昭和57年に教員生活を終えました。その後は学識を生かして地域活動に積極的に参加しました。郷土誌「中帯江の風土記」編纂事業では地区の古老に混じり編集委員を務めました。



転勤が決まり同僚と記念撮影。前列左から2人目が近藤綾子先生、4人目が井上陸太郎校長。昭和37年

舅が営んだ昭和初期の信用（中帯江信用組合）の貴重な実態を証言、関連写真も発掘するなど内容の充実に貢献しました。信用は現在の農協（JA）のような存在ですが、豊洲地区には当時まだ農協がなく先進的な組織でした。同誌を平成17年から

### 平成30年度末の主な教職員異動

### 校長に高槻氏着任

土家校長  
退職

百寿超えを目指してください！  
□：次男近藤康弘さん（歯科医）は青陵27期です。

転任  
鳴方 教諭 古谷 仁志（二七年）理科  
岡山朝日 教諭 山本由起子（二六年）保健体育  
笠岡 総務 村田 真一（二七年）事務  
岡山芳泉 主任 福本 雅哲（二九年）事務

着任  
校長 高槻 信博（玉島）  
教諭（理科） 桑木 亨（総社）  
教諭（芸術） 稲山留美子（玉島）  
事務（総務） 徳見 昌雄（総社）  
事務（主任） 本城 智美（県立図書館）

退職  
校長 土家 横夫（二九年）  
教諭 金地 真司（二二年）芸術  
教諭（青陵高校から再任） 林 俊輔（二六年）地歴公民  
教諭（再任）

実はね私、転校生なんです。私の生まれた粒江小学校区は当時児島郡のため、学区は味野高女(現倉敷鷺羽高)と倉敷高女に分かれていて、私は味野高女に入学しました。下津井電鉄(のち廃線)天城駅から電車通学しました。

昭和19年に入学したものの戦況が益々悪化、授業で山にイモやケシの花を植える作業ばかりで勉強はあまりしていません。ケシの花の汁を集めて軍に収めたようです。何に使ったんでしょうかね。

あるきっかけで転入試験を受けて2年生の2学期に倉女へ転校してきてびっくりしました。敵性語の英語が味野高女はなかったんですが、倉女にありますよね。数学もかなり進んでいて困ったんです。幸い、最初から倉女に

# 卒業生今むかし

青陵高校は平成30年に創立110周年を迎えた伝統校です。同31年春に70期が卒業しました。前身

の倉女は40期でした。偶然的節目です。2つの卒業期の人に学校生活を振り返ってもらいました。

## 終戦：部活、修学旅行、大学進学なし



卒業式の後、友人たちと撮った1枚。前列左端が小原孚美さん。昭和24年3月

### 小原(旧姓吉田) 孚美さん

ん、近藤(のち大崎)律子さんがいました。5年生のころ、中帯江から新任の近藤綾子先生(家庭科)が身重の体で歩いて通勤してましたね。

私は運動神経がよく、走ったり跳んだりする運動会は引張りだこでね、特に走り高跳びはいつも上位でした。クラブ活動はなく、修学旅行も戦後の食料難で行けませんでした。約6キロを自転車通学しましたが、よくパンクしてね、父の予科練の後輩が私に自転車を買ってくれました。ありがたかったです。父は真珠湾攻撃に参加、船が2度も撃沈され太平洋を泳いだそうです。よく生きて帰ったと思います。戦争はもう嫌です。

同窓会には2回出席しました。趣味は30年来のカラオケです。年1回発表会がありステージ衣装を着て美空ひばりさんの歌をよく歌います。

子ども2人、孫7人、ひ孫が6人いて幸せです。米寿を迎え、まだまだ元気です。

通学していた粒江小の同級生、白神(のち栢野)喜美子さんと吉田(のち武蔵)喜代子さんがノートを貸してくれてね、勉強したのよ。友達ってありがたいですね。

倉女最後の卒業生は5クラス145人で、大学へ進学した人はいませんでした。私は豊洲・西田の農家に嫁いできましたが、豊洲の同級生には中帯江の小原(のち高尾)虎子さ

青陵70期卒業？ うーん意識したことはありませんが、平成の最後でもあり区切りのいい卒業期だとは思いますが。

青陵時代は児島からバス通学しました。中学校は剣道部ですが青陵では弓道部に入りました。武道が好きで凛とした雰囲気憧れたんですよ。2段を取りました。今は県総合グラウンドの弓道場で趣味として続けています。

中学時代に生徒会長をした経験から、2年生で生徒会長に立候補しました。執行部は青陵祭

をしました。目玉のひとつ、ブロック演技では与えられた6分間で思いっきりダンス表現をしました。ブロック対抗順位は上位に食い込めませんでした。ブロック演技は確か2位でした。

受験勉強に全力を尽くし一瞬一瞬本気で取り組みました。年間行事がびっしりで、充実したあつという間の3年間でした。後輩の皆さんへ。3年間のどの場面を切り取っても無駄な時間はありません。その瞬間を大切にしてください。

この春、岡山大学法学部に入学、少し自分の時間が持てるようになりました。部活には入っていませんが、サークル活動として大学生協学生委員会、被災地支援の「おかやまバトン」、ネパールという運動「Going」に参加して

## 行事、受験勉強 瞬時に過ぎた3年間

### 鳥羽 涼斗さん

でオープニングの演出に当たりました。会長の私はダンス同好会と一緒にダンスをしながら登場、その流れで開会宣言をしました。書道部に、はよりのパフォーマンスを頼んで盛り上げてもらいました。

初の試みとして、文化祭の2日間に東北の被災地で生産された魚の缶詰とサイダーを販売、大好評でした。売り上げを義援金として現地へ送りました。復興のささやかなお手伝いができたと思います。

生徒会長は校内の他団体の取りまとめ、仲介業者との交渉など授業や部活とは違う経験をし、「やり切れた」という達成感がありましたね。

3年生の体育祭ではEブロックのブロック長

ですが、サークル活動として大学生協学生委員会、被災地支援の「おかやまバトン」、ネパールという運動「Going」に参加して楽しく過ごしています。

教養課程で民法の基礎を学んでいて、民法に興味を覚えました。将来は司法試験を突破して検事を目指します。



体育祭ブロック演技をリードする鳥羽涼斗さん(前列中央) 平成30年9月

## 倉中～青陵草創期の書籍や写真300点

収  
集



福田宏さんが収集した倉中～青陵草創期の資料

### 20年がかり、記念誌資料へ

倉中から青陵草創期の資料を集めたんですよ。一度見てももらえませんか？という電話を編集室へ平成30年4月、3期の福田宏さんからいただき、早速お邪魔しました。

資料は砂漠会と称する倉中から青陵1～3期の時代のものです。大森啓作さん（2期）の「青陵高校創世記」（「高梁川」第53号掲載）や砂漠会2期有志の「わが人生に乾杯」などの書籍をはじめ、砂漠会の名前の基になった高梁川河川敷の富井校舎や、一時間借りした倉商の校舎、校章、校旗、教職員、部活、大山登山などの写真、思い出をたどったCD「砂漠の青春」（2期・妹尾信秀さん制作）、最

近では青陵創立100周年記念式典（平成20年）のビデオなど約300点にのびります。写真はパソコンにすべてデータ保存してあります。

福田さんは「1～3期は倉中～青陵に6年間通ったので絆と思い入れが強いんですよ。資料は1、2期の先輩にもらったり、倉商や（富井校舎跡地の）中央高校に足を運んで20年がかりで集めました」と話しています。

青陵の次の周年記念誌作成には貴重な資料となるでしょう。

さらに、これまでに読んだ遠藤周作や佐藤愛子などの随筆が約1000冊あり、その中から青陵図書館が必要とする10冊程度を寄贈しました。

□：福田さんは在学中、陸上部で駅伝選手でした。エレベーター会社を経営しています／兄道男さんは1期、妹星島多恵子さんは8期、長男充さんは33期、次男豊さんは41期の青陵一家です。

□：「青陵高校創世記」は本紙第46号、CD「砂漠の青春」は第48号に詳細を掲載済みです。



3期  
福田

## 倉中跡地の中央高校に富井校舎の模型

青陵草創期、砂漠会（1～3期）の人たちの学び舎（富井校舎）の模型が倉敷中央高校に展示してあります。



青陵草創期の富井校舎を復元した模型＝倉敷中央高校玄関ホール

20年前から当時の写真など関連資料を収集している福田宏さんが数年前、中央高校を訪れ玄関ホールに展示してある模型を見つけて、「あっ、思い出の校舎だ！」と思わず感嘆したそうです。

昭和26年3月までの4年間、富井校舎で学び、4月の3年時、現在地の羽島に移転した福田さんらには思い入れがあります。中央高校はその4年後に創立地の日吉町から富井校舎跡地に移転しました。

中央高校の移転に合わせ、同20年代後半、富井校舎を撤去、改築しました。卒業後、富井校舎が解体されると聞いて福田さんは「岩橋（智猛）先生や同級生14、5人と一緒に名残を惜しみに行ききましたよ」と、思い出話をしてくれました。

模型は「昭和40年当時校舎」とあり、改築後の校舎ですが、正門や本部校舎の配置、赤屋根、玄関やその両脇の丸窓のレイアウトなど富井校舎を踏襲しています。

制作者は当時、中央高校に勤務していた美術担当の守屋義弘教諭です。模型の校舎部分の縦は



解体中の富井校舎（昭和20年代後半）＝倉敷中央高校提供

### 赤屋根や丸窓 忠実に

35㍍、横は110㍍。すぐそばを通る水島臨海鉄道の線路や西富井駅も忠実に再現しています。

青陵は明治41年、精思女学校として開校、倉敷高女を経て昭和24年の旧制倉中（当時倉敷高）との合併まで県立倉敷精思高校でした。

中央高校は同26年、市立精思高校、その後、県立倉敷精思高校となりました。時代は異なりますが、偶然にも同名校です。さらに同59年、青陵の家政科を中央高校へ移管するなど、ゆかりの深い両校です。

発  
見

# トピックス

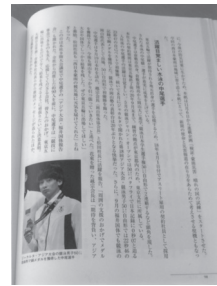
## 東京五輪 競泳代表なるか！

いよいよオリンピッククイヤー、目指せ東京五輪代表！ 青陵の生んだ競泳界のアスリート中尾駿一選手（65期）の勝負の年がきます。

50歳自由形を得意とし、2018年8月のアジア大会には銅メダルに輝きました。19年4月の日本選手権では6位と振るわず、6月のジャパンオープンで2位と健闘したものの、7月の世界選手権メンバーには選ばれませんでした。

20年4月の日本選手権で好結果を出せれば代表入りの可能性があります。もし代表に決まれば、青陵ではローマ五輪重量挙げの窪田登さん（1期）以来60年ぶり2人目の五輪出場となります。

### 50歳自由形中尾駿一選手（65期）



「山陽新聞百四十年史」の紙面を飾った中尾駿一選手

同選手は17年から毎年県オリ・パラ育成事業強化指定選手、18年秋から今年にかけて国体賞、山陽新聞体育賞、OHKスポーツ功労者特別賞などを次々受賞、日本の競泳短距離のトップクラスとして活躍しています。同選手は、アスリートでは珍しいマスコミの山陽新聞社所属です。同社が19年に発行した創刊140周年記念誌「山陽新聞百四十年史」に、経歴や戦績、五輪への抱負などが1ページにわたり掲載され、紙面を飾りました。

## ハートランド倉敷「川舟流し」

改元して令和時代に入ったばかりの5月の10連休に展開された倉敷美観地区の「第39回ハートランド倉敷」のメインイベント「川舟流し」に船頭としてデビューした人がいます。51期の若林秀一郎さんと、上々の竿さばきを披露しました。

令和元年を機に、28年続ける父秀次さんの体力面から秀一郎さんが跡を継ぐことになり、期間中の5日、1回だけ竹竿を握り小手調べをしました。

同日は絶好の行楽日和とあって、柳が光る掘割は全国から訪れた観光客で埋め尽くされました。若林さんは午後2時半、観光客に混じって友人や家族が見守る中、太鼓や笛の倉敷天領太鼓のメンバー5人を乗せ中橋をスタート、ゆっくり北上しました。

倉敷天領太鼓の法被とねじり鉢巻き姿の若林さんは竹竿一本で器用に舟を操り、大原美術館前の今橋を折り返し高砂橋まで南下、Uターンして無事、中橋へゴールしました。途中、知り合いに笑顔返すなど約200人を無難にさばきました。

その間、太鼓メンバーの華麗なばちさばきとともに、父譲りの長身の船頭さんの竿さばきにもカメラマンの注目が集まったようです。

若林さんは「練習では川べりの風景が見えてたんですが、本番ではそんな余裕なかったですね。写真を撮りやすいように川の真ん中をゆっくり進むことを心が

## 若林秀一郎さん（51期）船頭デビュー



「川舟流し」で巧みな竿さばきを見せる若林秀一郎さん（左端） 令和元年5月5日、倉敷美観地区

けました。父は『まああだな』と言っていました」と苦笑いしていました。

来年のことは未定ですが、「仕事が観光業なので倉敷の盛り上げのお手伝いをしたいですね」と意欲满满です。番が増えて人気を誇る白無垢姿の「瀬戸の花嫁」の船頭も務めるかもしれません。□…若林さんは青陵3年生の学園祭で、同級生と軽音楽バンドを組んで出演しました。倉敷アイビスクエア勤務で、本部同窓会の宴会担当です。

## 青陵初プロバスケ西谷亮一選手（58期） トライフープオカヤマに加入

プロバスケットボールのフォワード西谷亮一選手（58期）＝金沢所属＝は平成30年8月、岡山初のプロチーム「トライフープオカヤマ」に加入しました。

同選手は青陵高2年の同17（2005年）年に開かれた岡山国体で、岡山チームのベスト8入りに貢献しました。金沢大学を卒業後、クラブチームなどを経て、所属した東京Zで腕を磨き、チームは国内最高峰のBリーグ昇格を果たしました。

外角からのシュート力と守備力が武器で、トライフープオカヤマのBリーグ入りを目指す戦力となります。同選手は「地元に戻ってこられて幸せです。岡山を熱く盛り上げていきます」と張り切っています。

青陵OBのプロバスケットボール選手第1号で、地元での活躍が期待されます。

□…参考：平成30年8月23日付山陽新聞／トライフープオカヤマは同31年4月、BリーグB3（3部）参戦が決まりました。

## 最高峰Bリーグ入りの戦力に

近畿で活躍する同窓生	
比較憲法学会 元理事長 <b>平松 毅</b> （7期） 奈良市佐保台3-902-275（自宅） 〒670-0955 TEL（FAX兼）0742-71-7861	(株)大和リース 顧問 <b>小西 忠明</b> （7期） 奈良県香芝市尼寺476-46（自宅） 〒639-0261 TEL 090-2385-1245
(株)メビウス 執行役員 統括部長 <b>唐木 伸夫</b> （25期） 京都市北区衣笠総門町22-1（自宅） 〒603-8363 TEL 090-3169-8884	大阪大学レーザー科学研究所 教授 <b>白神 宏之</b> （26期） 大阪府吹田市山田丘2-6 〒565-0871 TEL 06-6879-8753
栗本建設工業(株) 取締役会長 <b>和氣 勝海</b> （26期） 大阪府豊中市新千里北町1-1-C8-310（自宅） 〒560-0081 TEL 080-9742-5533	(株)ファーマ インターナショナル 大阪支社 営業企画部 部長代理 <b>小原 康正</b> （33期） 大阪市西区江戸堀1-9-1 〒550-0002 TEL 06-6225-5095
内藤総合法律事務所 弁護士／ニューヨーク州弁護士 <b>内藤 秀文</b> （31期） 大阪市中央区今橋3-2-20 洪庵日生ビル4階 〒541-0042 TEL 06-6233-5230	

# 会員ニ点挿

(平成30、31年、令和元年/現役を含む)  
学年は当時

[受賞・受章]平成30年11月に岡山市で開かれた暴力追放・銃器根絶運動推進県民大会の席上、ポスターコンクールで石川楓果さん(1年生)が優秀賞を、元在職教員木山公二さんが同31年1月、高齢者叙勲で瑞宝小綬章を。井原高校長などを務めました。中桐泰さん(12期)が令和元年5月、春の叙勲で瑞宝単光章を。民生・児童委員を33年間務めています。東京学芸大学の吉田京平さん(67期)が同年6月、陸上の日本学生個人選手権男子400m障害で3位に。元連島神亀小学校長木村公久さん(6期)が同年6月、正六位瑞宝双光章を。コーラスグループ主宰の妹尾美穂子さん(31期)が同年同月、岡山市制施行130周年記念式典の席上、芸術文化の部で市長感謝状を。県高校夏季将棋大会が同年7月に開かれ、団体で青陵Aが2位に。個人は男女ともに3位でした。岡山県などが募集した覚醒剤等薬物乱用防止啓発用ポスターの入賞者が同年8月に決まり、県警本部長賞に3年藤原伊織さん、県覚醒剤等薬物乱用対策推進本部長賞に2年福成花野さん、保健福祉部長賞に同石川楓果さんの各作品が選ばれました。同年9月、高齢者叙勲で元妹尾郵便局長安原尚一さん(1期)、元特定郵便局長横溝良典さん(1期)がいずれも瑞宝双光章を。

◇

[選任]倉敷市議の三村英世さん(38期)が平成31年2月の同市議会臨時会で副議長に選ばれました。任期は申し合わせにより2年です。

◇

[当選]同年4月の県議選挙で山田(旧姓貝原)総一郎さん(24期)と渡辺英気さん(26期)が、いずれも7期目の当選を果たしました。早島町長選挙が令和元年8月に行われ、現職の中川真寿男さん(24期)が再選を果たしました。

◇

[就任]元在職教員多田一也さん(玉野高校長)が平成31年4月、県高校野球連盟会長に。任期は1年です。

◇

[講演]五輪メダリスト高橋大輔選手らを育てたフィギュアスケートコーチ佐々木美行さん(26期)が令和元年7月、くらしき健康福祉プラザで「生涯現役術」と題して。(講演要旨は本紙第52号に掲載します)同年5月に開かれた倉敷市環境衛生協議会総会の席上、元NHK解説主幹・室山哲也さん(23期)が「どうなっているの? 地球環境問題」と題して。

◇

[創作ミュージカル]令和2年3月21、22日に児島文化センターで、ノーベル賞候補森和俊さん(28期)ら著名な倉敷・味野中OBをテーマに。入場料は前売り大人1500円、当日1800円、高校生以下500円の予定です。

◇

[展覧会]平成31年1月に倉敷市立美術館で開かれた第62回倉敷美術展に青陵のOB・OG約15人が出品しました。鮑浦幸子さん(倉女39期)の日本画をはじめ洋画、工芸、立体の4部門に自信作を展示しました。磁[木村知子]+陶[岡本達弥]展

が同年1月、岡山市内のギャラリーで。磁器15年の木村さん(40期)と陶器20年の岡本さん(44期)の2回目の合同展=写真=です。食器や酒器、コーヒー茶碗など2人の作品計約150点を展示、陶芸ファンの目を楽しませました。天神窯の三人展が5年ぶりに同年3月、倉敷天満屋で。岡本篤さん(13期)の水指、長男和敏さん(44期)の花器、篤さんの妹川上節子さん(18期)の香炉など約120点を展示しました。酒津榎窯の武内立爾さん(29期)が同年4月、天満屋倉敷店で。大皿や鉢、花入れなど約200点を展示しました。水彩画家村田収さん(24期)の2年ぶりの個展が、令和元年5月に岡山市中区のギャラリーで。岡山や神戸の風景、ファンタジーな絵本の絵など25点を展示しました。寒(さぶ)風春木窯=瀬戸内市牛窓町=の沖塩明樹(本名下山春樹)さん=1期=の遺作展=写真=が同年5月、倉敷市内の民芸店で。窯仕舞いに伴い各地の民芸館へ寄贈した残りの作品、抹茶茶碗や皿、ぐいのみなど約700点を展示。即売、多くの陶芸ファンが訪れました。磁器作家木村知子さん(40期)の作品展が同年5月、倉敷市内の工房で。花器や食器などを展示しました。羽島焼の小河原和子さん(9期)、常美さん(15期・家庭科)の姉妹が同年6月、自らの窯元で窯出し展を。食器や花器を展示しました。洋画家渡辺暉夫さん(10期)が同年7月、新倉敷駅前のギャラリーで。小品25点を展示しました。



◇

[企画展]青陵高校書道部が平成31年1月、倉敷考古館で「書の見どころ展」を。儒学者・山田方谷ら幕末の偉人の書に解説を添えた作品24点を展示しました。

◇

[寄贈]川崎医科大学名誉教授福田道男さん(1期)が同30年12月、「義経はやなぎの薬効を知っていた一歯扶柳(はうじやなぎ)と歯木(しむく)」を青陵高校図書館へ。酒津焼開窯150年を記念して令和元年8月、窯元の岡本研作・和明兄弟(26期・36期)が県へ湯呑み50個、県教委へ皿・茶碗100個を。

◇

[計報]前東京青陵会会長関藤佳範さん(25期)が平成31年2月12日に。同21年から29年までの8年間、会長を務めました。卒業時には陸歌「我礎に為らん」とすを寄贈しました。元在職教員小野真さん(18期)が同年3月1日に。古城敬介さん(1期)が同年3月29日に。料治宏尚さん(8期)が同年4月14日に。元在職教員木山公二さんが令和元年5月11日に。元在職教員難波行彦さんが同年6月28日に。

◇

[同窓会入会式]平成31年2月、青陵高校体育館で。今春の70期卒業生313人が入会しました。卒業生は累計3万4324人となりました。席上、同窓会から卒業生へ入会記念品の目録(卒業証書入れ)が贈られました。

## 2020年の予定

### 本部総会

8月2日(日)  
午前10時から  
倉敷アイビースクエア  
(当番幹事)7と8の付く期と  
本年度の卒業生(71期)

### 東京青陵会

6月6日(土)  
午後3時から  
東京・明治記念館  
(予定)

### 近畿青陵会

5月31日(日)  
正午から大阪・KKRホテル

### 九州青陵会

10月10日(土)  
午後4時から  
福岡・西鉄グランドホテル

### 編集を終えて

●…今春、青陵70期生が卒業しました。前身の倉女は40期まで、終戦直前に設立された倉中は卒業生を生むことなく新制の青陵高校生として卒業しました。大きな節目を迎えたので、倉女40期の女性、卒業間もない青陵70期の男子大学生OBに学校生活を中心に話を聞かせてもらいました。お二人は70年の隔りがありますが、まるで曾祖母と曾孫です。時代背景、学校環境の違いが浮き彫りになりました。

●…私事ながら青陵OBとの出会いがありました。東京青陵会の「参加者ひとこと」コメントをくれた寺山一己さん(23期)は、実家が私宅と汐入川を隔てたすぐそばの早島町でした。もう一件は旅行中の今年7月に同郷、同姓にお会いしました。場所はなんと北のさいはて、北海道は利尻島のペンションです。支配人が「今日は佐藤さんが2人お泊まりです」というので、「私は岡山からですが、(佐藤姓の多い)東北からですか?」と声をかけました。すると「いや、東京に住んでますが出身は妹尾です。高校も倉敷です。東京青陵会に一度参加しましたよ」と言うのではないですか。聞くとう青陵OB佐藤八郎さん(22期)でした。こういう驚くべきまさかの出会いってあるんですね。

(編集主幹・佐藤豊行)

## 岡山県立倉敷青陵高校「同窓会だより 青陵」第51号

発行 岡山県立倉敷青陵高校同窓会  
[事務局] 〒710-0043 倉敷市羽島1046-2 TEL:086-422-8001 FAX:086-422-8004  
e-mail:seiry05@pref.okayama.jp URL:http://www.seiry0.okayama-c.ed.jp  
発行人 岡田展弘(25期)/編集委員 今岡道雄(13期) 佐藤豊行(18期) 林俊輔(28期)  
顧問 加川英郎(4期)  
印刷 株式会社サラト 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172  
お願い 同期会や同窓生の情報、話題を佐藤豊行(編集主幹090-6438-9227)、林俊輔(青陵高校教諭)へお寄せください。

〔本紙の編集〕  
\*原稿締め切りは9月20日です。編集、校正作業を経て12月末に全卒業生にお届けします。  
\*幹事の当番期に拘わらず、広告掲載をお願いしています。1枠5000円

「百華開天下春」一。倉敷市亀山の山陽新聞豊洲販売所の作業場の壁に力強い文字の横額が掲げてあります。「百華開いて天下の



渡辺行雄さん揮毫の横額 山陽新聞豊洲販売所

## 横額に「百華開天下春」

春」と読みます。

倉敷市長当時の渡辺行雄さん（1期）の揮毫です。選挙活動が好きだった先代所長の井手孝志さん（故人）が、懇意にしていた渡辺さんをお願いしたものです。家運隆盛を想像する縁起の良いメッセージが込めら

れていますが、孝志さんの妻和子さんは「場違いなところに掛けていて申し訳ない気持ちです。明るくて元気の出る言葉なので仕事の励みになります」と話しています。

渡辺さんの揮毫は他にもあると思われますが、貴重な一品です。

## 倉敷の新聞販売所に寄贈

# 先輩は語る

玉野市の田井新港に接岸した「しらせ」 平成12年10月撮影



「しらせ」は同58年に就航、佐藤さんが初代艦

## 「人生は忍の一字」

倉敷市福田町古新田の実家は旧庄屋で、平成31年3月に登録有形文化財に指定されました。 □：参考・平成12年7月6日付山陽新聞／神奈川県横須賀市在住の佐藤さんは令和元年8月19日に亡くなられました。お悔やみ申し上げます。

長になりました。艦長は約180人の海上自衛隊員とともに乗船、操船の指揮を執ります。が、「悪天候には逆らわず無理しないことを心掛けた。隊員にけがなく無事帰国させることが最大の使命でした。当時の心構えを話し、「真つ白な世界、幻想的なオーロラなど自然の雄大さに圧倒されました」と南極の魅力を語ります。

「しらせ」は、日本人で初めて南極大陸に上陸した探検家白瀬巖（のぶ）にちなんで命名された砕氷艦です。全長134.4mで、船首を水上に乗り上げ、船の重みで氷を砕きます。船内には医師がいて理髪室やトレーニングジムもあります。平成20年に退役、現在は2代目「しらせ」に交代しています。

佐藤さんは海上自衛隊を退官後、水島信用金庫に常務理事として10年間勤務、故郷にも貢献しました。青陵へは自転車で40分かけて通学、部活はハンドボール部でした。後輩へのメッセージとして、「長年の勤務経験から『忍の一字、忍耐』です」と明快に答えてくれました。

南極観測は同31年、オゾン層や海水温、海底地形の観測・調査を目的に始まり、昭和基地を開設しました。隊員や物資を基地に運ぶ観測船「宗谷」、「ふじ」に続く。



佐藤さんは防衛医科大学を卒業して海上自衛隊に勤務、昭和48年から60年まで6回にわたり南極を経験しました。「ふじ」から「しらせ」の時代で、主な任務は日本から南極までの約2カ月の航行と物資搬送です。

## 南極観測船「しらせ」初代艦長 佐藤保さん (4期)



佐藤さんが母校に寄贈した南極の石＝青陵高校創立80周年記念会館蔵